

HiKOKI

取扱説明書

用途

- 鉄、青銅、アルミ鋳物などのバリ取りおよび仕上げ、溶接、溶断部の研削、さび落とし
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗装落とし
- 軟鋼材（薄物鉄板、小径丸棒など）の切断
- カワラ、タイルなどの切断
- カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの溝入れおよび研削

コードレスディスクグラインダ

14.4 V

100 mm

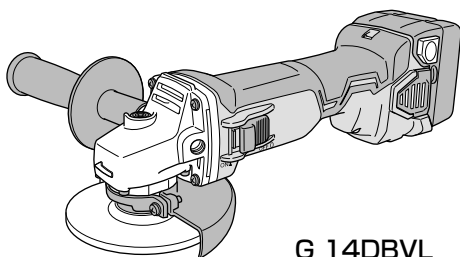
G 14DBVL

18 V

100 mm

G 18DBVL

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



G 14DBVL

コードレス工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	5
リチウムイオン電池の使用上のご注意	8
各部の名称	10
仕様	11
標準付属品	12
別売部品	13

はじめに

ご使用前の準備	15
トイシの取付け・取りはずし	16
各種操作方法について	17
蓄電池を充電する (UC 18YSL2)	19
削る	21
キックバックについて	25
キックバック軽減システムについて	26
別売部品の取付け方	27

使い方

保守・点検	36
ご修理のときは	裏表紙

その他

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠ 警告**」、「**⚠ 注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠ 注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**
 - この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **正しく充電してください。**
 - 充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源、昇圧器などのトランス類では使用しないでください。
異常に発熱し、火災の恐れがあります。
 - 充電器の使用温度範囲外では、蓄電池を充電しないでください。正しく充電されないばかりか、蓄電池の寿命が短くなります。
また、破裂や火災の恐れがあります。
 - 蓄電池は、換気の良い場所で充電してください。充電中、蓄電池や充電器を布などでおおわないでください。破裂や火災の恐れがあります。
 - 使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電や火災の恐れがあります。
- ③ **蓄電池の端子間を短絡（ショート）させないでください。**
 - 釘袋などに入れると、短絡（ショート）して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。

⚠ 警告

- ④ **感電に注意してください。**
 - ぬれた手で、充電器の電源プラグに触れないでください。
感電の恐れがあります。
- ⑤ **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - コードレス工具体・充電器・蓄電池は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。感電や発煙の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用したり、充電しないでください。
爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑥ **保護メガネを使用してください。**
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
切削したものや粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ⑦ **加工するものをしっかりと固定してください。**
 - 加工するものを固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。
固定が不十分な場合は、加工するものが飛んで、けがの原因になります。
- ⑧ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、蓄電池を工具体から抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
 - 刃物、ビットなどの付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑨ **不意な始動は避けてください。**
 - スwitchに指を掛けて運ばないでください。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑩ **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
 - この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
事故やけがの原因になります。
- ⑪ **蓄電池を火の中に投入しないでください。**
 - 破裂したり、有害物質の出る恐れがあります。

⚠注意

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、コードレス工具や充電器のコードに触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
- ③ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。事故の原因になります。
 - 工具本体や蓄電池を、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。蓄電池劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
 - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。発煙、発火の恐れがあります。
- ⑤ **作業に合ったコードレス工具を使用してください。**
 - 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。
- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。すべりやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ **充電器のコードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
 - コードが踏まれたり、引っ掛けられたり、無理な力を受けて損傷することがないように、充電する場所に注意してください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
- ⑧ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- ⑨ **コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。

⚠注意

- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。けがの原因になります。
- 充電器を使用する前に、電源プラグやコードを点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
- 充電器に延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。

⑩ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。

- スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは、作動時に飛び出して、けがの原因になります。

⑪ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- 屋外で充電する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

⑫ 油断しないで十分注意して作業をしてください。

- コードレス工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
- 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
- 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。

⑬ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
- 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。異常動作して、けがの原因になります。

⑭ コードレス工具の修理は、専門店に依頼してください。

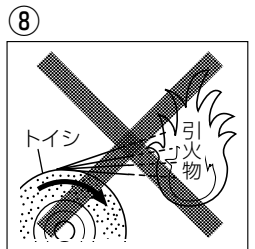
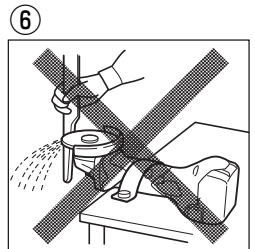
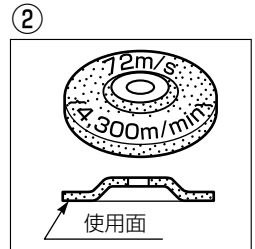
- サービスマン以外の人とは、工具本体・充電器・蓄電池を分解したり、修理・改造をしないでください。発火したり、異常動作して、けがの原因になります。
- コードレス工具が熱くなったり、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレスディスクグラインダとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

- ① ホイルガードは、必ず取付けて使用してください。
 - トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。
- ② 使用するトイシ（レジノイドトイシ）は、最高使用周速度 72m/s {4,300 m/min} 以上の正規のトイシを取付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。
 - 正規以外のトイシを使用したり、また側面や上面で研削すると、トイシが破壊し、けがの原因になります。（トイシ寸法は P.11 「仕様」をご参照ください。）
- ③ トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
 - 異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。
- ④ 使用中は、振り回されないよう機体を確実に保持してください。とくに始動時は気をつけてください。サイドハンドルをしっかりと取付けてください。
 - 確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ⑤ 水、研削液などは使用しないでください。
 - 乾式用のため、トイシの破壊によるけがや感電の恐れがあります。
- ⑥ 本体を万力などで保持した使い方はしないでください。
 - トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。
- ⑦ 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。
 - けがの原因になります。
- ⑧ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。
 - 火災ややけどの原因になります。



警告

- ⑨ 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを作業前に十分確かめてください。
- 埋設物があると先端工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑩ トイシを用いて切断作業をする場合は、切断トイシを使用してください。
- 切断トイシ以外のトイシは、けがの原因になります。
- ⑪ 切断トイシを使用する場合は、切断トイシ専用の下記の部品を取付けてください。

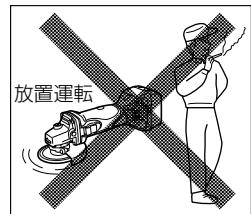
外径 100 mm 用	ホイルガード【切断トイシ用】 ホイルナット【切断用】
-------------	-------------------------------

切断トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- けがの原因になります。
- ⑬ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑭ 誤って落としたり、ぶつけたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
- 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑮ 〔事業者の方へ〕 トイシの取替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令 労働安全衛生法 第59条
労働安全衛生規則 第36条
安全衛生特別教育規程 第2条

⑫



⚠注意

- ① 工具類（トイシなど）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
 - 確実でないと、はすれたりし、けがの原因になります。
- ② 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの露出部から一時身体を避けてください。
 - トイシが破壊したとき、けがの原因になります。
- ③ 試運転を励行してください。

試運転時間は、P.22「⑦ 試運転を行う」をご参照ください。

 - 試運転せずに作業開始すると、思わぬけがの原因になります。
- ④ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
 - 材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑤ 指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。
 - 丸のことしての保護装置がなく、けがの原因になります。
- ⑥ 精密部品を内蔵していますので、落下等の強い衝撃を加えたり、水にぬらさないでください。
 - 動作不良、誤動作等をおこす原因になります。
- ⑦ 蓄電池を一般のごみと一緒に捨てたり、火の中へ入れないでください。
- ⑧ 蓄電池は子供の手の届かない所に保管してください。
- ⑨ 蓄電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品にはリチウムイオン電池が標準で付属されております。(NN仕様を除く)
リチウムイオン電池の寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能がついています。

本製品を使用中、スイッチを引いたままでも下記①、②、③の場合、モーターが停止する場合がありますがこれは保護機能によるものであり故障ではありません。

① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。

14.4 V 蓄電池 (BSL14xx シリーズ) の場合 : 電池電圧 8 V まで低下すると停止
18 V 蓄電池 (BSL18xx シリーズ) の場合 : 電池電圧 10 V まで低下すると停止
このときは速やかに充電してください。

② コードレス工具本体が過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。このときはスイッチを切り、過負荷の原因を取除いてください。

③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。このときは、蓄電池の使用を中断し、コードレス工具本体より取りはずして、風通しの良い日陰などで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

蓄電池の液漏れ、発熱、発煙、発火を未然に防ぐため以下の内容を必ず守ってください。

① 蓄電池に切りくずやほこりがたまらないようにしてください。

- ・作業中に切りくずが蓄電池に降りかからないようにしてください。
- ・作業中にコードレス工具にたまった切りくず、ほこりが蓄電池に降りかからないようにしてください。
- ・蓄電池を使用しないとき切りくず、ほこりが降りかかる場所に蓄電池を放置しないでください。
- ・保管時、蓄電池は切りくず、ほこりを落とし、金属製の部品 (ねじ、釘など) とは別々にしてください。

② 蓄電池に釘をさす、ハンマーでたたく、踏みつける、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。

③ 外傷、変形の著しい蓄電池は使用しないでください。

④ (+)(-) を逆にして使用しないでください。

⑤ 蓄電池を直接、コンセントや車のシガレットコンセントに接続しないでください。

⑥ 蓄電池を指定機器以外の用途に使わないでください。

⑦ 充電の際に所定の充電時間を大幅に超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。

⑧ 蓄電池を電子レンジに入れたり、高圧容器に入れるなど過熱、高圧を与えないでください。

⚠警告

- ⑨ 蓄電池が液漏れしたり、悪臭がするときは直ちに火気より遠ざけてください。
- ⑩ 強い静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⑪ 蓄電池の使用、充電、保管時に異臭を発したり、発熱、変色、変形その他今までと異なる事に気がついたときは、直ちに使用機器あるいは充電器より取り出して使用しないでください。

⚠注意

- ① 蓄電池が液漏れして液が目に入ったときは、こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
 - 放置すると液により目に障害を与える原因になります。
- ② 蓄電池が液漏れして液が皮膚や衣類に付着した場合は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
 - 皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。
- ③ お買い上げ後、初めて使用する際、さびや異臭、発熱、その他異常と思われるときは、使用しないで買い上げの販売店にご持参ください。

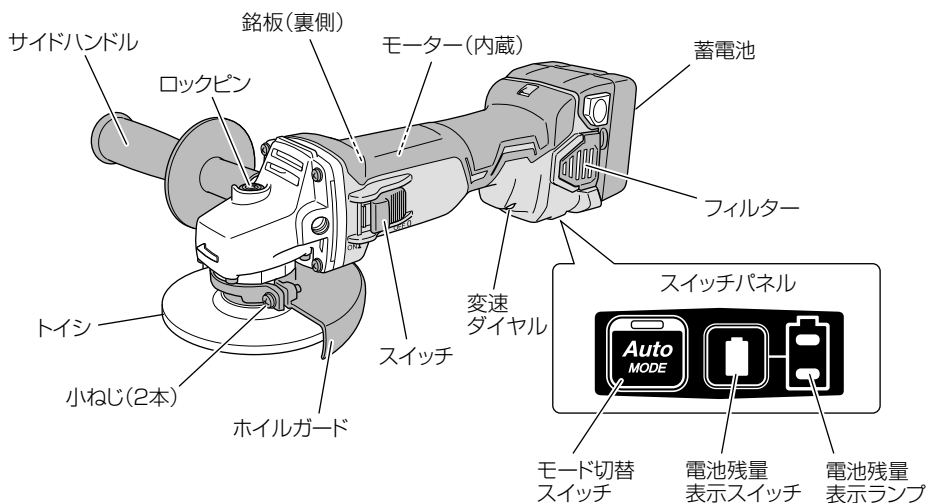
蓄電池はリサイクルへ.....

コードレス工具に使用の蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池や製品の廃棄の際は、リサイクルにご協力いただき、お買い求めの販売店にご持参ください。



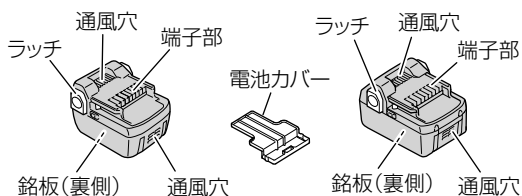
各部の名称

工具本体 【イラストは G 14DBVL です】



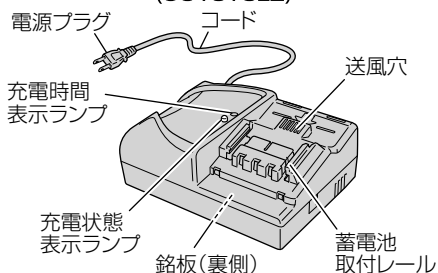
蓄電池

14.4V(BSL 1450/BSL1460) 18V(BSL 1850/BSL1860)



充電器

(UC18YSL2)



※ UC 18YDL の取扱いは、別冊を参照してください。

仕 様

1. 工具体

形 名	G 14DBVL	G 18DBVL
モ ー タ ー	直流ブラシレスモーター	
無 負 荷 回 転 数 [気温 20℃満充電時]	5,500 min ⁻¹ {回/分}(オートモード時) 4,700 ~ 9,000 min ⁻¹ {回/分}(変速モード時)	
トイシ寸法	外 径	100 mm
	厚 さ	レジノイドフレキシブルトイシ : 3.5 mm、5 mm レジノイドトイシ : 4 mm、6 mm
	穴 径	15 mm
質 量	2.1 kg (蓄電池装着時)	2.2 kg (蓄電池装着時)
電池残量表示ランプ	赤色 LED	

2. 充電器 ※ UC 18YDL の仕様は、別冊を参照してください。

形 名	UC 18YSL2	
入 力 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V	
充 電 時 間 [気温 20℃時]	BSL 1850/BSL 1825/BSL 1450/BSL 1425	約 35 分
	BSL 1840/BSL 1440/BSL 1420	約 30 分
	BSL 1830/BSL 1430/BSL 1415	約 22 分
充 電 電 圧	14.4 V—18 V	
充 電 電 流	BSL 1850/BSL 1840/BSL 1830 BSL 1450/BSL 1440/BSL 1430	7.5 A
	BSL 1825/BSL 1815/BSL 1425 BSL 1420/BSL 1415	3.5 A
コ ー ド	2 心ビニールコード	
質 量	0.7 kg	
使 用 温 度 範 囲	0℃～40℃	
冷 却	対応 (ファン付き)	
ブ ザ ー 音	あり	

3. 蓄電池

形 名	BSL 1450	BSL 1460	BSL 1850	BSL 1860
種 類	円筒密閉形リチウムイオン電池			
電 池 電 圧	14.4 V		18 V	
容 量	5.0 Ah	6.0 Ah	5.0 Ah	6.0 Ah
冷 却	対応			

標準付属品

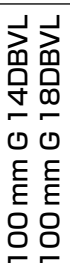
品名・形名 トイシ外径 仕様	G 14DBVL		
	100 mm		
	LYPK	LJCK	NN
レジノイドトイシ (外径 100 mm × 厚さ 4 mm × 穴径 15 mm)	1 枚	1 枚	1 枚
ホイルガード	1 個	1 個	1 個
サイドハンドル	1 個	1 個	1 個
スパナ	1 個	1 個	1 個
蓄電池	BSL 1460 1 個	BSL 1450 1 個	—
充電器	UC 18YDL [※] 1 台	UC 18YSL2 1 台	—
収納ケース	1 個	1 個	—
電池カバー	1 個	1 個	—

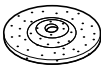
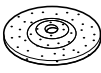
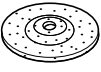
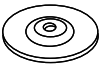
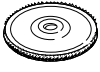
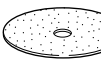
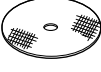
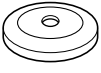
品名・形名 トイシ外径 仕様	G 18DBVL		
	100 mm		
	LYPK	LJCK	NN
レジノイドトイシ (外径 100 mm × 厚さ 4 mm × 穴径 15 mm)	1 枚	1 枚	1 枚
ホイルガード	1 個	1 個	1 個
サイドハンドル	1 個	1 個	1 個
スパナ	1 個	1 個	1 個
蓄電池	BSL 1860 1 個	BSL 1850 1 個	—
充電器	UC 18YDL [※] 1 台	UC 18YSL2 1 台	—
収納ケース	1 個	1 個	—
電池カバー	1 個	1 個	—

※ UC 18YDL の取扱いは、別冊を参照してください。

(別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください)

取付け方法は、P.27～35をご参照ください。



1 レジノイドフレキシブルトイシ  研削時の振動、騒音が低く、研削面への吸い付きが抜群。 ステンレス、一般鋼材に材質を選ばず使用でき、効率的な作業ができます。	2 フレキシブルトイシ  柔軟性をもったトイシで、作業中の衝撃が少なく、レジノイドトイシによる重研削と、サンディングディスクによる仕上げの中間仕上に適し、高能率を発揮します。	3 レジノイドトイシ  目づまりが少なく、研削性能は最高。 特にステンレスの荒研削には抜群の性能を発揮します。
4 網目サンディングディスク  一般鋼材、アルミ、ステンレス等の研磨やFRP、プラスチック、スレート、各種ボードの研削作業に適しています。	5 テーパードマルチ根ディスク (穴式) フェルトディスク サイザルディスク  ステンレスやチタンの研削、研磨、各種金属のさび落とし、木材や石材の研削、研磨、金属の鏡面仕上げ等用途に応じてお選びいただけます。	6 多羽根ディスク (ワンタッチ式) (ねじ式) (穴式)  トイシに比べ高能率、長寿命のすぐれたもの。 ジルコニア微粒なのでステンレス、特殊鋼の研削および重研削作業も可能です。
7 サンディングディスク  研削量が少なく仕上げ面をきれいにしたいとき、塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落としなどに用います。	8 ベベルワイヤブラシ (穴式) 9 ベベルワイヤブラシ (ねじ式)  穴式  ねじ式	11 切断トイシ  切断トイシは金属用と非金属用の2種類あります。
9 カップワイヤブラシ (ねじ式) ナイロングリッドブラシ  ベベルワイヤブラシと同じ目的に使用されますが、とくに仕上げ面が平らな場合能率的です。	10 ワイヤレスブラシ/ワイヤレス曲面ブラシ  素地を削らず、金属表面の皮膜・ヨゴレ・キズだけをキレイに除去します。 ワイヤレス曲線ブラシは、パットを使い分けて平面、曲面を研磨できます。	12 ダイヤモンドカッター ダイヤモンドカップホイール カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの溝入れ、および研削用など、多彩にラインナップしております。
セグメント 	波形セグメント 	V字形 
サーフエーサー 	ダイヤモンドカップホイール 	

ご使用前の準備

●作業環境の整備

薄い鋼板などを研削する場合には、作業台の状況によっては研削音が鋼板に反響して大きな騒音が出る場合があります。このような場合には鋼板の下にゴムシートを敷くなどして騒音を出さない配慮が必要です。

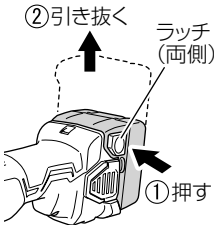
○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●蓄電池の取付け・取りはずし

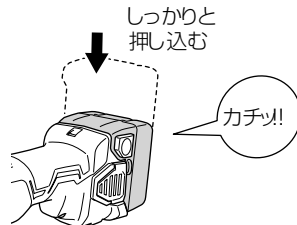
取りはずすとき

蓄電池を工具本体から取りはずすときは、両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。



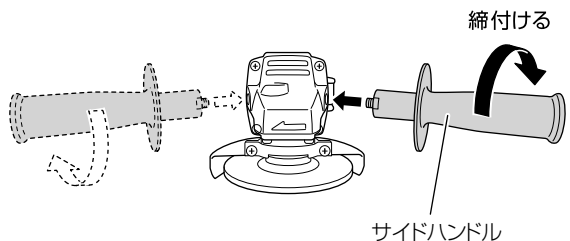
取付けるとき

蓄電池を取付けるときは、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込んでください。



●サイドハンドルの取付け

サイドハンドルは、本体の2ヶ所に取付け可能です。作業に合わせて、確実に取付けてください。



トイシの取付け・取りはずし

標準付属のレジノイドトイシは次の手順で取付け・取りはずしをしてください。

警告

トイシの取付け、取りはずしの際は、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いてください。

誤ってスイッチを入れてしまうと、けがの原因になります。

取付け

1 ホイルワッシャ・トイシを取り付ける

- ### 取付ける
- スピンドルを上に向け、ホイルワッシャの裏側の小判形凹部をスピンドルの切欠部に合わせてホイルワッシャを取付けます。
 - ホイルワッシャの上にトイシの突出部を当てます。

2 ホイルナットを取付ける

トイシの上からホイルナットの凸部
をトイシの穴に合わせ、スピンドルに
取付けます。

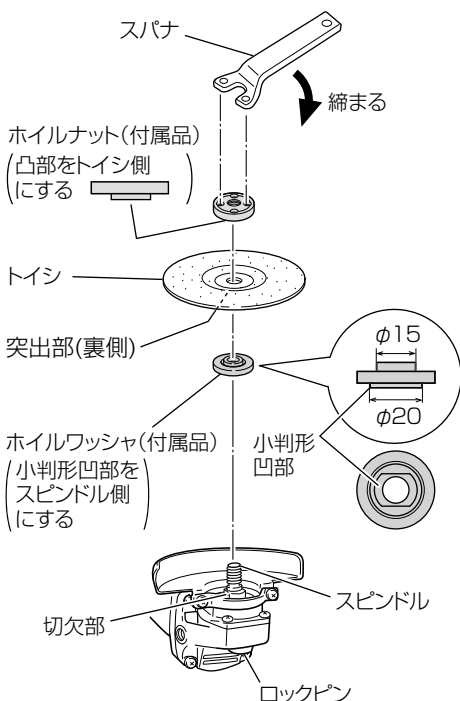
3 ホイルナットを締付ける

- ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイールナットを十分に締付けます。
- ロックピンから手をはなすと、元の位置に戻り、スピンドルの固定が解除されます。

注 ロックピンを押してはなしたときに、
確実に戻ることを確認してください。

⚠ 注意

- ホイルナットは、必ず付属のスパナを使って十分に締付けてください。
- ホイルワッシャ【ダイヤ用】（別売部品）を、ホイルナットの代わりに使用しないでください。



取りはずし

トイシを取りはずす場合は、①～③の
取付けと逆の手順に行います。

各種操作方法について

●スイッチについて

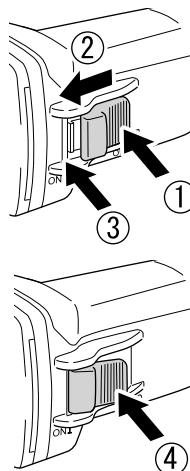
⚠警告

工具本体に蓄電池をさし込む前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。

スイッチを入れたまま蓄電池をさし込むと、事故の原因となります。

スイッチは①の方向に押して、②の方向にスライドさせたあと、③の方向に押し込むとスイッチがロックされ、連続運転ができます。

ロックを解除し、スイッチを切るときは④の方向にスイッチを押します。



●電池残量表示について

電池残量表示スイッチを押すとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

電池残量表示スイッチから指をはなすとランプは消灯します。

ランプの点灯状態と電池残量は以下のようになっています。

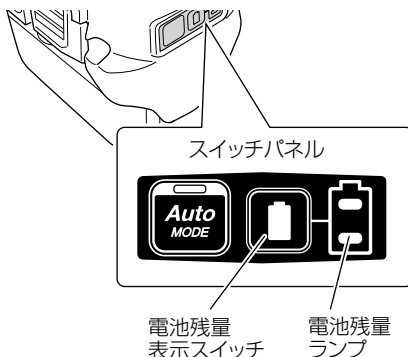
ランプの点灯状態	電池残量
	十分電池残量があります。
	電池残量が半分になっています。
	非常に少なくなっています。早めに充電してください。

電池残量表示は、周囲温度、電池特性等で多少異なりますので、目安として見てください。

⚠注意

スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。故障の原因になります。

注 電池の消耗を少なくするため、残量表示スイッチを押している間のみ、ランプが点灯します。



●モード切替機能について

蓄電池を工具体体に取付け、一度スイッチを入れた後、モード切替スイッチを押すことで、作業モードがオートモードと変速モードに交互に切替わります。

オートモード時は、オートモード表示ランプが点灯します。

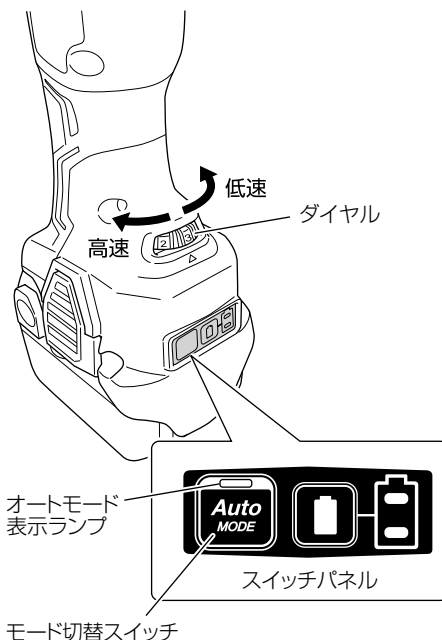
- オートモードでは、モーターの無負荷時の最高回転数を低くすることで、騒音をおさえることができます。

オートモードは、作業中に負荷が大きくなると回転数を自動的に引き上げます。

また、負荷が小さくなると、自動的に回転数を下げます。

- 変速モードでは、トイシの回転数を6段階に設定できます。

変速モードは負荷が変化しても、ダイヤルで設定した回転数を維持します。



用途に応じた、モード設定およびダイヤル設定をしてください。

モード	状 態		回転数 (min ⁻¹) {回 / 分}	作業の目安
オート	無負荷時		5,500	軽作業、作業待機状態
	作業時		9,000	研削、切断作業
変 速	ダイヤル設定	1	4,700	} ステンレスの研磨 さび落とし、塗装はがし
		2	5,500	
		3	6,400	
		4	7,200	} 研削、仕上研削 荒研削、切断
		5	8,100	
		6	9,000	

蓄電池を充電する (UC 18YSL2)

ご使用前、新品時、長期間ご使用にならないとき、残量が残りが少なくなったときは、次のように充電してください。

1

電源を確認する

この充電器は交流 100 V 用です。
200 V 電源に接続すると、充電器が異常に発熱し、故障します。
また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。

※標準付属の充電器が UC 18YDL の場合は、別冊を参照してください。

⚠ 警告

手順 ①、② については、充電器の電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

2

コンセントを確認する

コンセントがガタついたり、電源プラグが抜け落ちてしまうときは、接続しないでください。
そのまま使用すると危険です。

5

充電が終わったら

- 充電が完了すると、充電ランプが緑に連続点灯し、ブザーが「ピー」と 6 秒鳴ってお知らせします。
- 電源プラグをコンセントから抜き、充電器から蓄電池を抜き取ってください。

3

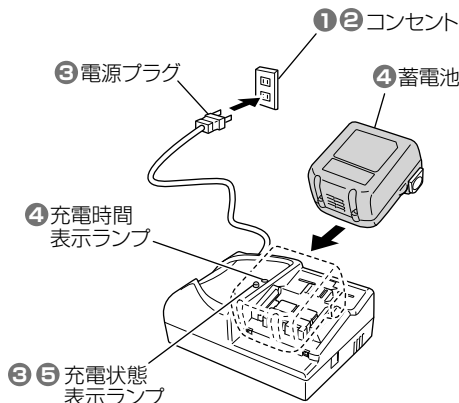
電源プラグをコンセントにさし込む

充電状態表示ランプが赤の点滅を繰り返します。
(P.20「充電ランプの表示について」参照)

4

蓄電池を充電器にさし込む

- 蓄電池をしっかりと突き当たるまでさし込んでください。
- 充電を開始すると、充電時間表示ランプが赤 / 橙 / 緑のいずれかに連続点灯して、充電完了までの時間をお知らせします。



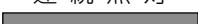
充電時間 [気温 20℃時]

BSL 1450/BSL 1850	約 35 分
-------------------	--------

注 充電時間は周囲温度や蓄電池の状態により長くなることがあります。

●充電ランプの表示について

充電器には、充電時間の目安を表示する「充電時間表示ランプ」と充電状態を表示する「充電状態表示ランプ」がっています。各ランプの表示内容は以下になっています。

ランプ	ランプの表示		表示内容
充電時間 表示ランプ	赤点灯	連続点灯 	充電完了まで約 30 分
	橙点灯	連続点灯 	充電完了まで約 20 分
	緑点灯	連続点灯 	充電完了まで約 5 分
	赤点滅	0.3 秒点灯 / 0.3 秒消灯 	蓄電池の温度が高くて充電できません。 (温度が下がると自動的に充電を開始します。)
充電状態 表示ランプ	赤点滅	0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯 	電源にさし込んだ状態
	緑点灯	連続点灯 	充電完了
	橙の速い点滅	0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯 	充電器または蓄電池に異常あります。 (下記参照)

注 ●橙の速い点滅 (0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯) を繰り返し、ブザーが「ピッピッピッ」と約 2 秒鳴るときは、蓄電池の取付け部または蓄電池の端子部に異物が入っていないか確認し、異物が入っていた場合は取除いてください。

異物が入っていない場合は、充電器または蓄電池の異常と考えられますので、充電器と蓄電池の両方を組にして、お買い求めの販売店にご持参ください。

- 一度充電が完了した後、次の充電まで 5 分程度休ませてください。
同じ充電器を連続して使用すると、充電器が発熱し、故障の原因になります。
- コードレス工具を使用した直後の蓄電池は熱くなっていますので、蓄電池が少し冷めてから充電します。
すぐ充電すると、蓄電池の寿命を短くします。
- コードレス工具の力が弱くなってきたと感じたら、使い続けるのをやめ、充電します。
無理に使い続けると、蓄電池が傷み、寿命を短くします。
- 正しい充電をしても、蓄電池の使用時間が著しく低下してきたときは、蓄電池の寿命がすぎたものとお考えいただき、新しい蓄電池と交換してください。
寿命のすぎた蓄電池をそのまま使用していると、蓄電池だけでなく、充電器故障の原因になります。

○新しい蓄電池は、当社純正品をご使用ください

当社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証はできません。

削る

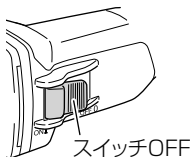
- 鉄、青銅、アルミ鋳物などのバリ取りおよび仕上げ、溶接、溶断部の研削、さび落とし
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落とし
- 軟鋼材、カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの切断、溝入れおよび研削

⚠警告

- 手順①～④については、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具体から抜いて確認してください。
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 機体に衝撃をかけるとトイシにヒビが入ったり、割れたりする恐れがあるので、取扱いには十分注意してください。万一機体を誤ってぶついたり、落としたりしたときは、必ずトイシのヒビ割れや、機体に破損などがないことを十分確認してください。

1 スイッチが切れていることを確認する

スイッチが OFF 側になっていることを必ず確認してください
(P.17「スイッチについて」参照)



2 ホイルガードを点検する

- ホイルガードはトイシが破壊した場合に使用者を保護するためのものですから、必ず取付けてください。
- ホイルガードは、小ねじ(2本)を少しゆるめることにより任意の角度に動かすことができます。作業に適した角度にセットしてご使用ください。調整後は、小ねじ(2本)を確実に締付けてください。

3 ロックピンを確認する

ロックピンを押して、はなしたとき確実に戻ることを確認してください。

注 モーターの磁力により、ロックピンが戻らない場合があります。その場合は、スピンドルを左右に数回動かして戻ったことを確認してください。

4 トイシを確認する

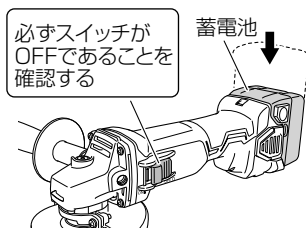
- トイシは正規のものか、またヒビや割れがないか調べてください。
- トイシは正規の状態に取付けられ、十分締付けられているか点検してください。
(P.16「トイシの取付け・取りはずし」参照)

⚠注意

蓄電池は確実に取付けてください。
確実にしないと、蓄電池が抜け落ちたりして、けがの原因になります。

5 蓄電池を取付ける

下図の向きで、「カチッ」と音が出るまで、しっかりとさし込んでください。



⚠ 注意

- 機体のスイッチを入れるときは、機体の回転部分が加工材などに接触していないことを確認してください。接触していることを知らずにスイッチを入れると、トイシが破壊することがあり、けがの原因になります。
- 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの露出部から必ず一時身体を避けてください。

7

試運転を行う

- トイシにヒビ・割れがあるのを気づかずに作業すると非常に危険です。
- 作業前には人のいない方向にトイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は

トイシ交換のとき……………3 分間以上
その日の作業始めのとき…1 分間以上

注

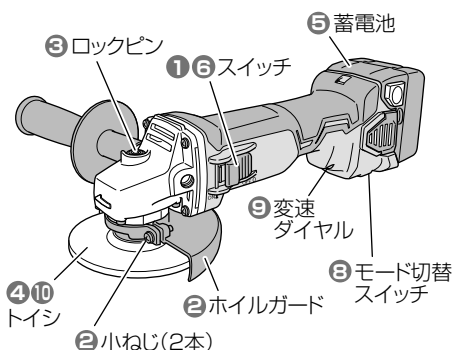
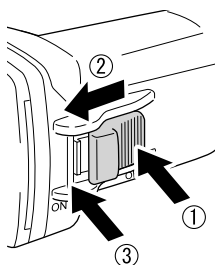
モーターが回転中は、ロックピンを押さないでください。またロックピンを押したままでスイッチを入れないでください。

6

スイッチを入れる

スイッチは①の方向に押して、②の方向にスライドさせたあと、③の方向に押し込むとスイッチがロックされ、連続運転ができます。

(P.17「スイッチについて」参照)



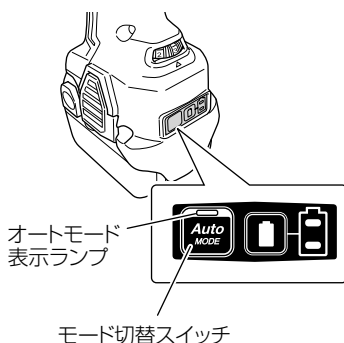
8

モードを調整する

モード切替スイッチを押して、作業に応じたモードに切替えます。
(P.18「モード切替機能について」参照)

モード	回転数
オート	5,500 min ⁻¹ {回/分}
変 速	4,700 ~ 9,000 min ⁻¹ {回/分}

- 注**
- モード切替は蓄電池を工具体に取付け、一度スイッチを入れた後でないと切替えできません。
 - スwitchの入/切、蓄電池の抜き/さしをしても、設定したモードは維持されます。



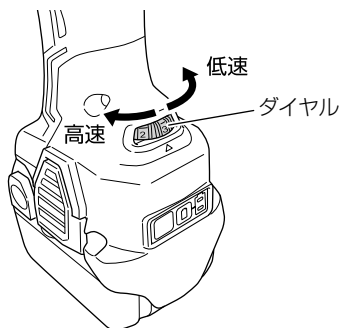
9

回転数を調整する

変速モードでご使用の際に、用途に応じて、トイシの回転数を調整します。
(P.18「モード切替機能について」参照)

回転数設定目安

ダイヤル番号	回転数 min ⁻¹ {回/分}	作業の目安
1	4,700	ステンレスの研磨
2	5,500	
3	6,400	
4	7,200	さび落とし、塗装はがし
5	8,100	
6	9,000	研削、仕上研削
		荒研削、切断

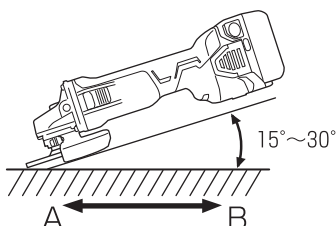


10

材料にトイシをあてる

(参考 参照)

- トイシが新しいときは、前 (A の方向) へ押しますとトイシの角が食い込むことがありますから、後ろ (B の方向) へ引いてご使用ください。
- トイシの全面を材料にあてないで、図のように機体を $15^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 傾けて、トイシの外周部で研削してください。
- 角が消耗しましたら、どちらへ進めても問題ありません。



注 • トイシは材料に強く押しつけないでください。

強く押しつけると回転が落ち仕上げ面がきたなくなります。また過負荷になってモーターが故障する原因になります。

- 連続運転等により、本体に内蔵されているコントローラの温度が上がり、モーターが停止する場合があります。これはコントローラの保護機能によるもので、故障ではありません。このときは、本体をしばらく休ませてください。再びご使用になれます。

参 考

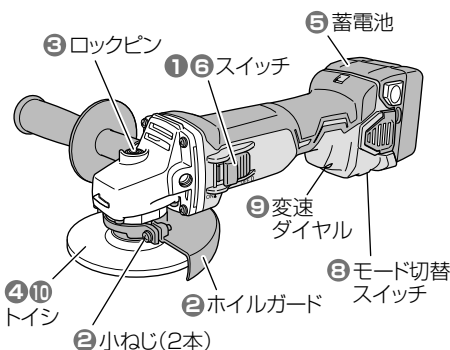
付属のトイシは一般鋼材の重研削用に最も適しておりますが、その他の各種の材料にも使用できる用途の広いものです。

なお粒度が粗い方ですから仕上げ面をきれいにするには、機体を軽く持ち上げ気味にしてゆっくりと一定速度で研削しますと、粒度の細かいものと同じように仕上げることができます。

11

作業を終了する

使用後はスイッチを切って、トイシの回転が止まってから機体を置いてください。回転が止まらぬうちに切粉やごみの多い場所に置きますと、切粉やごみを吸い込むことがあります。機体の寿命低下、事故の原因となりますのでご注意ください。



キックバックについて

キックバックとは

回転中のダイヤモンドカッターや切断トイシに、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは工具本体が作業側にはじき飛ばされる現象です。

キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込み
- ② 曲線切りなど、本体をこじる作業
- ③ 材料にダイヤモンドカッターや切断トイシの刃先を当てた状態での起動

他にも、劣化したダイヤモンドカッターや切断トイシの使用、過度に深い切込み設定（ディスクの先端 1cm 程度の切断が適切です。）過大な押しつけなど、複合的な原因があります。

キックバックを避けるには

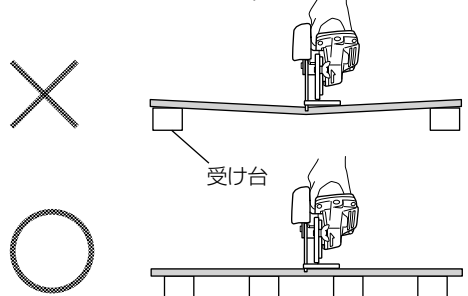
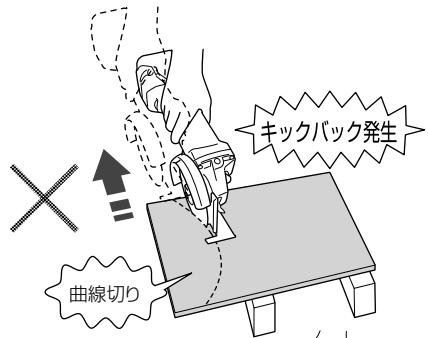
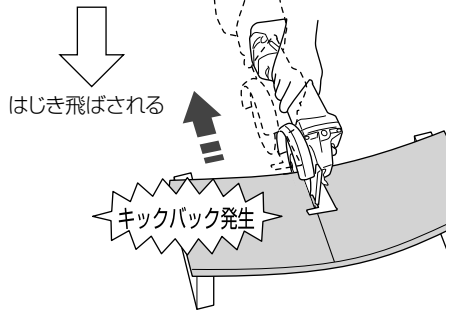
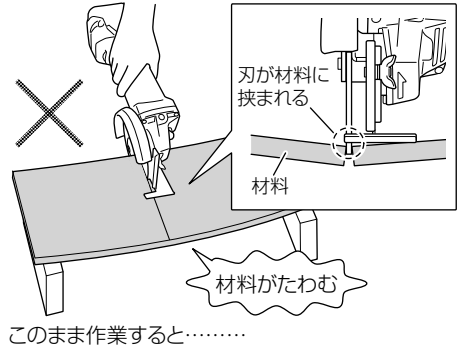
材料によるダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、ダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近いところに受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、ダイヤモンドカッターや切断トイシを挟み込みます。

切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



キックバック軽減システムについて

本製品は、モーターの回転数の変化を監視し、ダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込み等により、モーターの回転速度が急速に低下したとき、瞬時にモーターを停止することで、キックバックの動きを軽減する「キックバック軽減システム」が搭載されています。

キックバック軽減システムが作動したら…

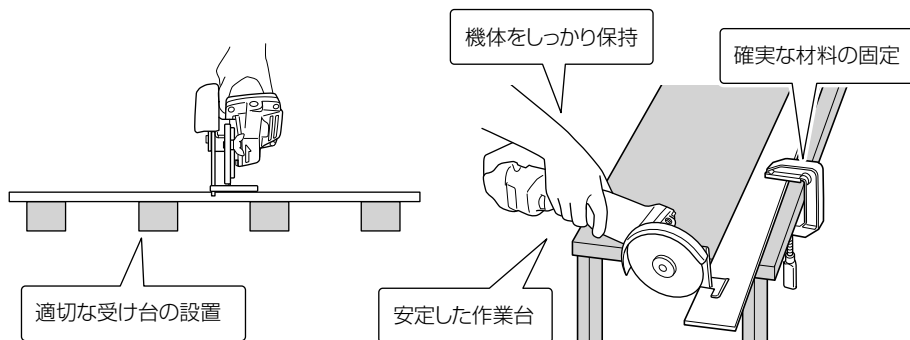
キックバック軽減システムが作動してモーターが停止したときは、

- ① 直ちに機体のスイッチを切る
- ② ダイヤモンドカッターや切断トイシにかかった負荷の原因を確認する
- ③ 過負荷となった原因を取除く
- ④ 再度スイッチを入れる
- ⑤ 切断を再開する

注意していただきたいこと

「キックバック軽減システム」は、作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合があります。

作業時は、確実な材料の設置・固定および本体の保持を行ってください。



別売部品の取付け方

⚠ 警告

別売部品を使用する際も、以下の内容を守ってください。

- 万一の事故を防止するため、取付け、取りはずしの際は、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いてください。
- ホイルガードを取付け、保護メガネを使用してください。
- 使用前に、ヒビ割れ、欠け、曲がりがないことを点検してください。
- 水や研削液などをかけて使用しないでください。
- 強い反力が発生することがあるので、機体を確実に保持してください。

⚠ 注意

トイシと同様に試運転を行って、異常がないことを確認してください。
(P.22「⑦ 試運転を行う」をご参照ください)

● サンディングディスクの取付け

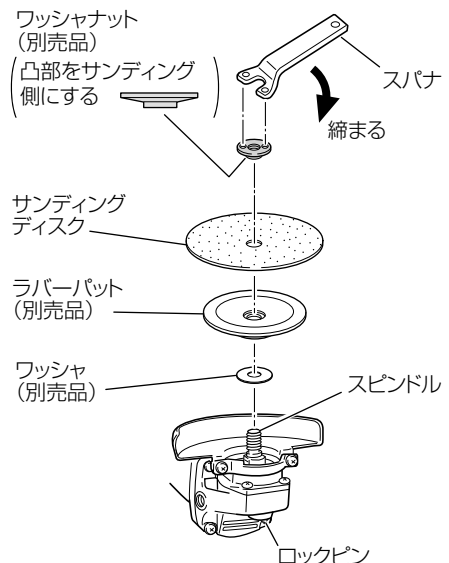
○ サンディングディスクをご使用になるときは、ワッシャナット、ラバーパット、ワッシャを一緒にお買い求めください。

注 付属のトイシ取付け用のホイルワッシャ、ホイルナットは使用しません。

1 スピンドルにワッシャ、ラバーパット、サンディングディスクの順に取付けます。

2 サンディングディスクの上からワッシャナットの凸部をサンディングディスク側にして、スピンドルに取付けます。

3 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでワッシャナットを十分に締付けます。



●フレキシブルトイシ、網目サンディングディスクの取付け

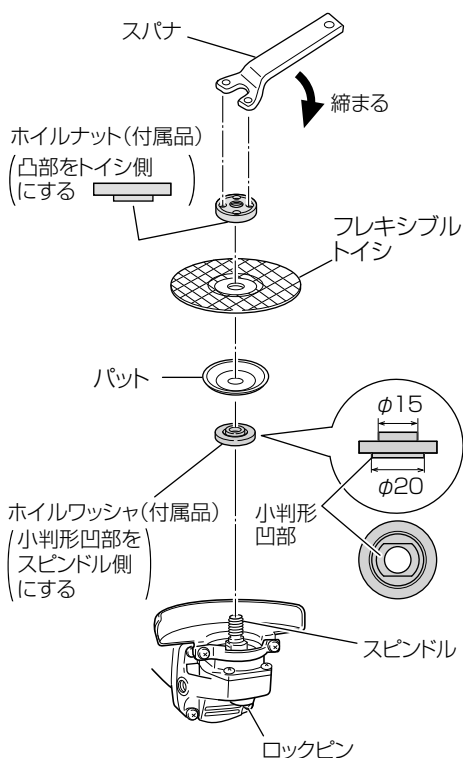
- フレキシブルトイシ、網目サンディングディスクをご使用になるときは、それぞれ専用のパットを使用します。
- パットはフレキシブルトイシ、網目サンディングディスクに同梱されています。

注 付属のトイシ取付け用のホイールワッシャ、ホイールナットを使用します。

1 スピンドルにホイールワッシャ、パット、フレキシブルトイシの順に取付けます。

2 フレキシブルトイシの上からホイールナットの凸部をフレキシブルトイシの穴に合わせ、スピンドルに取付けます。

3 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイールナットを十分に締付けます。



●ワイヤレス曲面ブラシの取付け

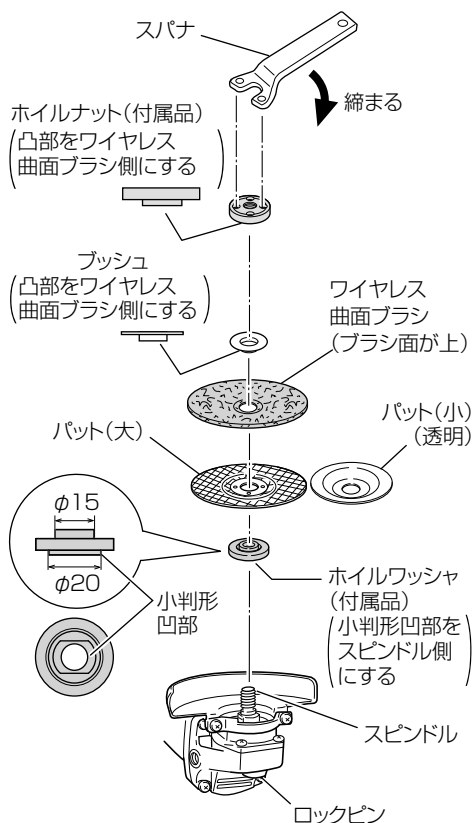
- ワイヤレス曲面ブラシをご使用になるときは、専用のパットとブッシュを使用します。
- パットとブッシュはワイヤレス曲面ブラシに同梱されています。
- 平面の研磨作業はパット（大）を、曲面の研磨作業はパット（小）を使用します。

注 付属のトイシ取付け用のホイールワッシャ、ホイールナットを使用します。

1 スピンドルにホイールワッシャ、パット（小）またはパット（大）、ワイヤレス曲面ブラシ、ブッシュ（凸部をワイヤレス曲面ブラシ側）の順に取付けます。

2 ブッシュの上からホイールナットの凸部をブッシュの穴に合わせ、スピンドルに取付けます。

3 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイールナットを十分に締付けます。



●ダイヤモンドカップホイールの取付け

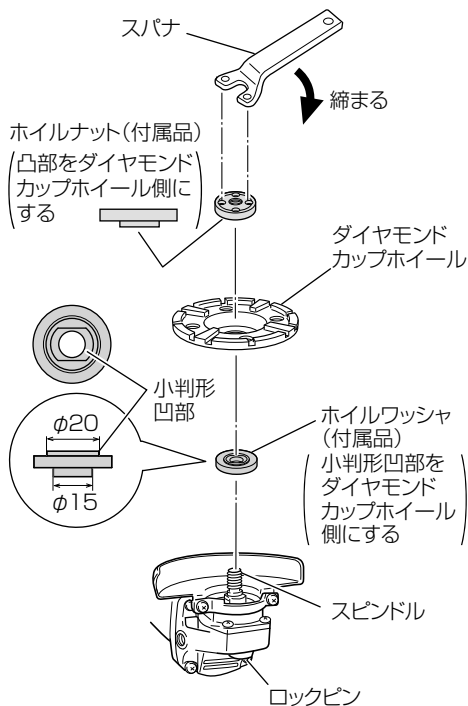
○ダイヤモンドカップホイールは乾式用をご使用ください。

注 ホイルワッシャ、ホイルナットは付属のトイシ取付け用と同じ部品を使用しますが、ホイルワッシャは付属のトイシ取付け時と向きを逆にして使用します。

1 スピンドルに、ホイルワッシャ、ダイヤモンドカップホイールの順に取付けます。

2 ダイヤモンドカップホイールの上から、ホイルナットの凸部をダイヤモンドカップホイールの穴に合わせ、スピンドルに取付けます。

3 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。



●ガイドベースの取付け

○切断トイシやダイヤモンドカッターを使用する際、ガイドベースを取付けてご使用になると切込み深さを一定に保つことができます。

注 ●切断トイシをご使用になるときは、必ず別売のホイルガード【切断トイシ用】、ホイルナット【切断用】と合わせてご使用ください。(P.33「切断トイシの取付け」参照)

●ちょうねじ、小ねじ(2本)はしっかりと締付けてください。

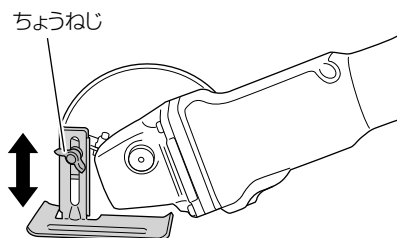
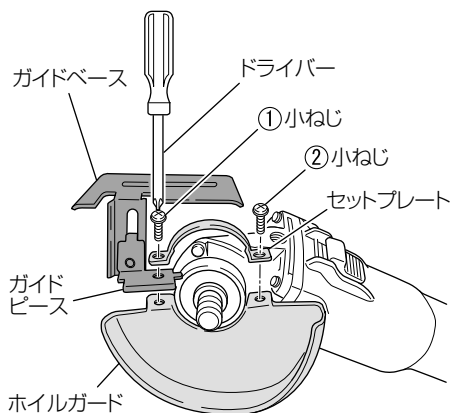
締付けが不十分な場合、作業中にねじがゆるんでガイドベースが動き、けがの原因になります。

1 ホイルガードの小ねじ2本(①と②)をゆるめます。

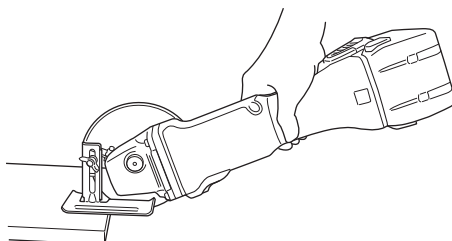
2 ガイドピースをホイルガードとセットプレートの間にはさみ込み、①小ねじを十分に締付けます。

3 ホイルガードの角度を作業に合った位置にセットし、②小ねじを十分に締付け、ホイルガードを固定します。

4 ちょうねじをゆるめて、切込み量を調整します。



[使用例]



●ダイヤモンドカッターの取付け

- ダイヤモンドカッターは乾式用をご使用ください。
- 別売のガイドベースを取付けてご使用になると、切込み深さを一定にすることができます。(P.31「ガイドベースの取付け」参照)

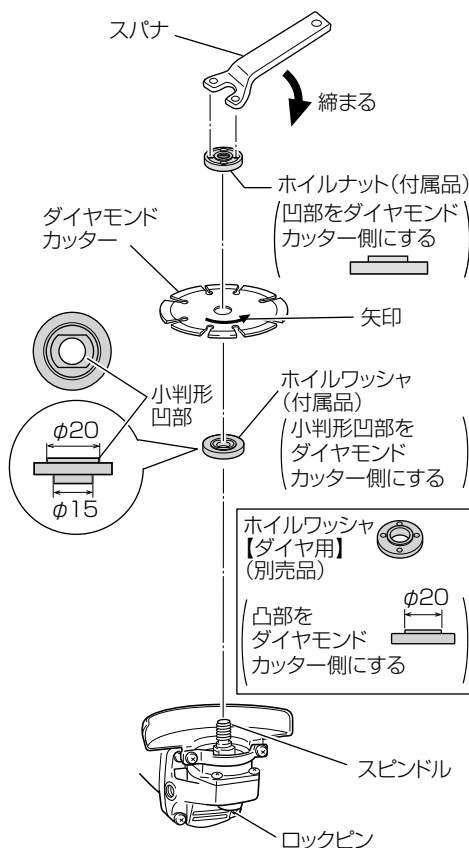
- 注** ●送り速さを加減しながら無理な力をかけないようにして使用してください。
- ホイルワッシャ、ホイルナットは付属のトイシ取付け用と同じ部品を使用しますが、どちらも付属のトイシ取付け時と向きを逆にして使用します。

- 1** スピンドルに、ホイルワッシャ、ダイヤモンドカッターの順に取付けます。

- 注** ギヤカバーについている矢印とダイヤモンドカッターについている矢印の方向を合わせてください。

- 2** ダイヤモンドカッターの上から、ホイルナットの凹部をダイヤモンドカッター側にして、スピンドルに取付けます。

- 3** ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。



参 考

- 付属のトイシ取付け用ホイルワッシャの代わりに別売部品としてダイヤモンドカッター専用ねじ式のホイルワッシャ【ダイヤ用】を用意してあります。より精度の高い加工をするときにお買い求めください。
- ホイルワッシャ【ダイヤ用】の取付けは、凸部(φ20)をダイヤモンドカッター側にして、取付けます。
- 電池消耗が少なく、効率の良い切削をするためには、1回の切込み量を10mm前後としてください。

●切断トイシの取付け

- 切断トイシは金属用と非金属用の 2 種類あります。
- 鉄などの切断には金属用切断トイシをご使用ください。
- 切断トイシをご使用になるときは、別売のホイルガード【切断トイシ用】、ホイルナット【切断用】を必ず取付けてご使用ください。
- 別売のガイドベースを取付けてご使用になると、切込み深さを一定にすることができます。(P.31「ガイドベースの取付け」参照)

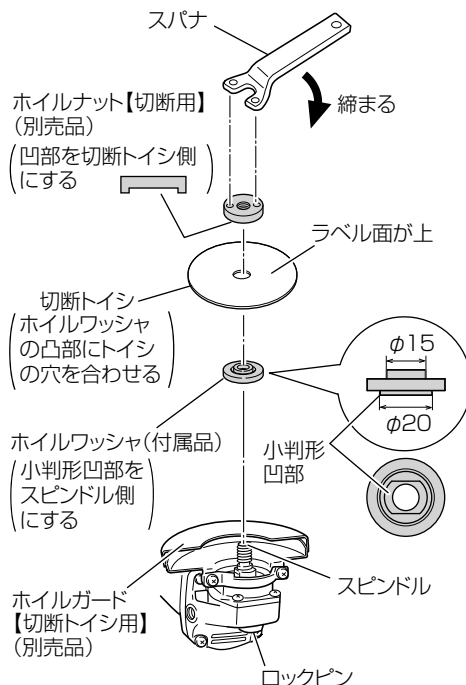
注 付属のトイシ取付け用のホイルナットは使用しません。
ホイルワッシャは付属のトイシ取付け用と同じ部品を使用します。

1 付属のホイルガードの小ねじをゆるめてはずし、ホイルガード【切断トイシ用】を取付けます。

2 スピンドルにホイルワッシャ(付属品)、切断トイシの順に取付けます。

3 切断トイシの上からホイルナット【切断用】の凹部を切断トイシ側にし、スピンドルに取付けます。

4 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナット【切断用】を十分に締付けます。



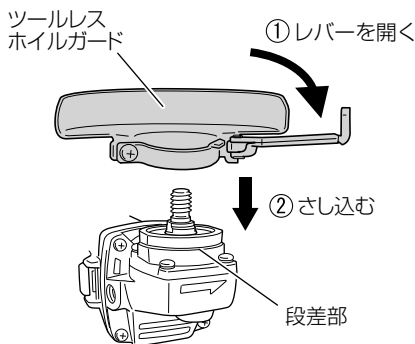
- 注**
- モーター故障の原因になるので、1 回の切込み量は 5 mm 以下にしてください。
 - 送り速さを加減しながら無理な力をかけないようにして使用してください。
 - ホイルガード【切断トイシ用】は、切断作業時に発生する研削火花で高温になります。手など触れないようにご注意ください。

●各種先端工具の取付け

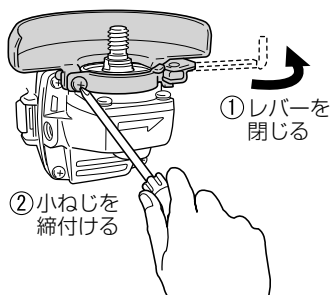
先端工具	取付け方法
レジノイドフレキシブルトイシ ベベルワイヤブラシ（穴式） テーパ式多羽根ディスク（穴式） フェルトディスク サイザルディスク 多羽根ディスク（穴式）	付属のトイシ取付け用オイルワッシャ、オイルナットを使用し、付属のレジノイドトイシと同じ方法で取付けます。 (P.16「トイシの取付け・取りはずし」参照)
カップワイヤブラシ（ねじ式） ベベルワイヤブラシ（ねじ式） サーフェーサー（ねじ式）	直接スピンドルにねじ込んでください。 付属のトイシ取付け用オイルワッシャ、オイルナットは使用しません。
ワイヤレスブラシ	付属のトイシ取付け用のオイルワッシャを使用し、 (小判形凹部をワイヤレスブラシ側にする) 直接スピンドルにねじ込んでください。 付属のオイルナットは使用しません。
多羽根ディスク (ワンタッチ式)(ねじ式)	付属のトイシ取付け用のオイルワッシャを使用し、 (小判形凹部をスピンドル側にする) 直接スピンドルにねじ込んでください。 付属のオイルナットは使用しません。

● ツールレスホイールガードの取付け

- 1** レバーを開いて、ギヤカバーにツールレスホイールガードを段差部に突き当たるまでさし込みます。



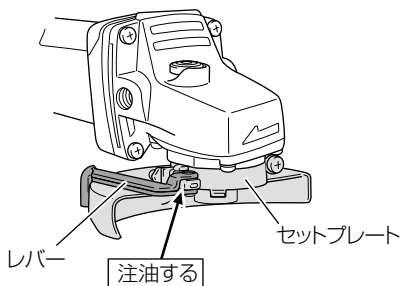
- 2** レバーを閉じ、小ねじをお手持ちのプラスドライバーでしっかりと締付けます。



- 3** ツールレスホイールガードを動かして、ガタつきやゆるみがないか確認してください。

- 4** レバーを開いて、スムーズにツールレスホイールガードの向きを変えることができることを確認します。

- 注** レバーが滑らかに動かないときは、セットプレートとレバーの接触面に注油してください。



保守・点検

⚠ 警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いてください。また充電器は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

● トイシの交換時期

トイシの外径が下記の大きさぐらいまで摩耗しましたら、新品と交換してください。

形 名	摩耗限度外径
G 14DBVL G 18DBVL(100 mm)	約 60 mm

● モーター部の取扱について

モーター部 (P.10「各部の名称」参照) の巻線は工具の重要な部分です。巻線にキズ、洗油および水をつけないよう十分に注意してください。

● 取付ねじの点検

工具のねじがゆるんでいないか、点検してください。
ゆるんでいたら、締め直してください。

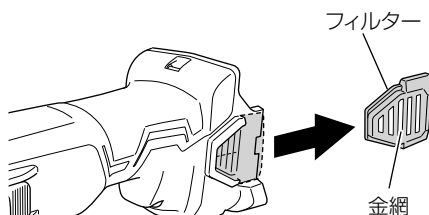
● お手入れする

工具が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

● フィルターの清掃

使用後はフィルターをはずし、エアガンなどで金網に付着したごみやほこりを取り除いてください。

- 注**
- フィルターを取りはずして無負荷運転し、湿気のない空気を入れることで、内部のごみやほこりを排出してください。
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。
 - 清掃後、フィルターを確実に取付けてください。



● 作業後の保管

作業後は、温度が 50℃ 未満で、お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

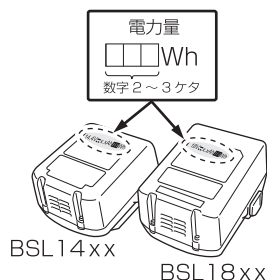
- 注**
- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。
 - 軒先など雨がかかったり、湿気のある場所には保管しない。
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所には保管しない。
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。

● リチウムイオン電池の輸送について

⚠ 警告

輸送会社にリチウムイオン電池を含む荷物であること、および電力量を伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。

- 電力量が 100 Wh を超えるリチウムイオン電池の場合は、輸送貨物の分類上、危険物扱いとなり、特別な申請等が必要になります。
- 海外へ輸送する場合、国際法令および輸送先国の規制に従う必要があります。

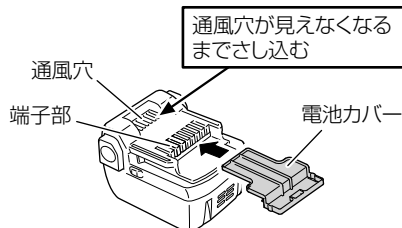


● リチウムイオン電池の保管について

⚠ 警告

リチウムイオン電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡（ショート）して発熱、発煙、発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を必ず守ってください。

- 収納ケースに導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡（ショート）するのを防ぐため、蓄電池は工具体体にさし込むか、電池力バーを取付けて保管してください。



注 リチウムイオン電池を保管するときは、満充電にして保管してください。蓄電池の残量が少ない状態で長期間（3 か月以上）保管すると蓄電池が劣化し、使用時間が著しく短くなったり、充電できなくなる恐れがあります。使用時間が著しく低下した蓄電池でも、充電と使用を 2～5 回繰り返すと使用時間が回復する場合があります。充電と使用を繰り返しても使用時間が極端に短い場合は、蓄電池の寿命がつかたとお考えいただき、新しい蓄電池をお買い求めください。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00 ~ 17:00

●フリーダイヤル



0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。

携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。

お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 896-1740	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 6738-0872	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認い
ただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>